

参 考 資 料

目 次

○広島都市圏の現状と課題	
・ 広島都市圏の中核拠点性向上に向けた調査研究の概要	1
○県の上位計画	
・ 広島県の目指す姿（ひろしま未来チャレンジビジョンより抜粋）	5
・ 広島圏域の都市計画区域マスタープランの概要	6
○広島市の検討状況	
・ 広島都市圏における主な施設の設置状況（類似都市圏との比較を含む）	9
・ 旧市民球場跡地活用アイデアの他の大規模未利用地との機能分担について	10
・ 大規模未利用地への都市機能配置案	11

広島都市圏の中核拠点性向上に向けた調査研究の概要

調査研究の目的と方法

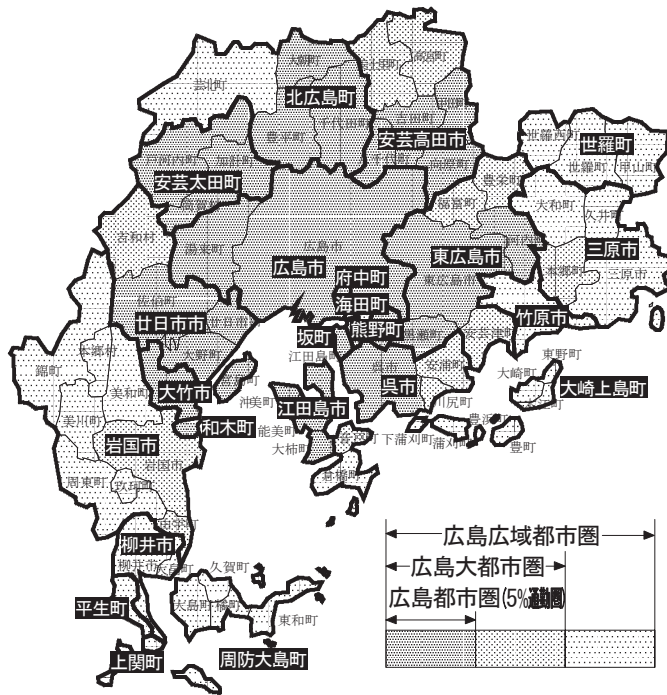
調査研究の目的

広島都市圏が中国地方の自立的発展の牽引役となるよう、中核拠点機能の現状と課題、その強化方策等について調査研究を実施。

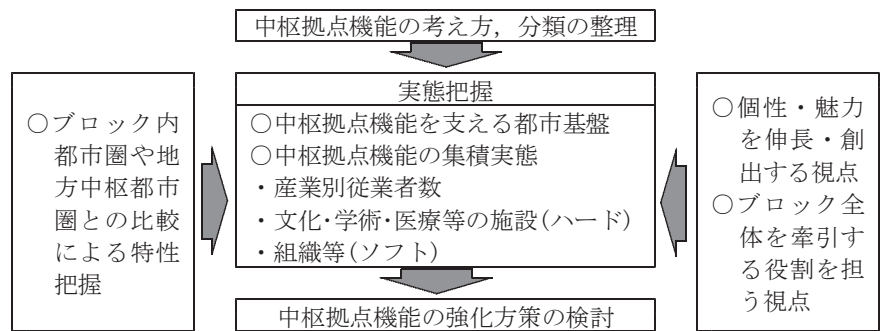
この調査研究結果は、関係機関における今後の施策展開に活かすとともに、平成19年度から策定作業が本格化する国土形成計画の広域地方計画への反映を目指す。

調査対象地域（広島都市圏の区域）

一体的な圏域としての広島都市圏の形成実態に即したものとするため、平成の大合併前の旧市町村単位（平成12年）で設定する。具体的には、次に示す広島都市圏（5%通勤圏）の区域を基本とする。



調査分析の視点（調査分析フロー）



※比較対象都市圏
 ○中国地方の地方中核都市を中心とする主要都市圏（鳥取、松江、岡山、福山、山口）
 ○地方中核都市圏（札幌、仙台、福岡）

中核拠点機能の考え方

次のような実態的、政策的な考え方の下に調査分析を実施
 ○実態的…超広域的な需要等に応じて必要とされる高次都市機能
 ○政策的…拠点都市圏が規模・特性等に応じて担うべき高次都市機能

中核拠点機能の強化方策一骨子

基本的考え方

少子高齢・人口減少社会の潮流や経済のグローバル化の進展、道州制の議論の本格化など分権改革の進展を踏まえて、広島都市圏が既存の集積を活かしつつ、より一層中核拠点性を高め、その効果を周辺地域に波及させていくことにより、自立した中国ブロック（中国地方）の形成に貢献していくことが必要

グローバル社会を迎える中では、海外諸国・地域と対等に競争し得るポテンシャルと存在感の発揮が期待できるブロック単位で「地域の自立的発展」を図ることが必要。

そのためには、ブロック内の諸地域が地域資源等を活かして個性を發揮し、役割分担と連携の下に全体の発展を支えていくことが重要。

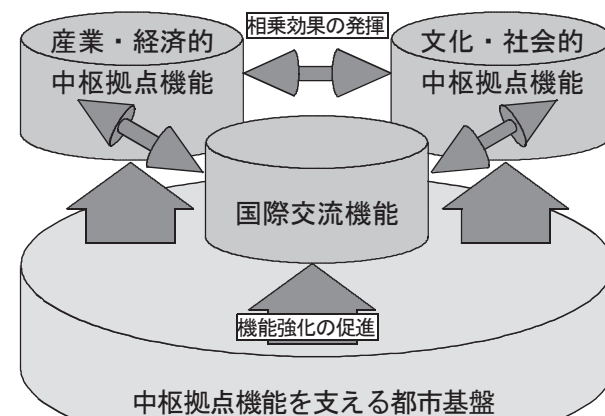
中核・中核都市圏は、①広く就業機会や高次のサービス等を提供する役割を果たすこと、②ブロックが、東京圏を始め三大都市圏に高次の機能を過度に依存することなく、ブロック内において高次の機能を充足し自立的な経済力を確保できるよう、ブロック全体の発展を牽引する中核拠点機能を備えることが必要。

あらゆる面で中国地方最大の集積を有する広島都市圏は、中核拠点機能を發揮しその効果を広域的に波及させることにより、中国地方の自立的発展を牽引する重大な役割を担う。

このような認識に立ち、中核拠点機能を支える都市基盤、産業・経済的中核拠点機能、文化・社会的の中核拠点機能、国際交流機能それぞれの強化を図ることが必要。

その際には、機能強化が相乗効果を發揮し、相互に新たな機能強化を誘発するよう、各種施策を積極的に推進していくことが必要。

広島都市圏においては、今後10年程度の間自動車専用道路等の基幹道路のネットワーク形成が進展し、都市圏内外を連絡する交通条件が格段に高まる。これを中核拠点機能強化への転機と捉えて、広域的な波及・連帯力の向上や都市圏内の都市間連携の強化などに活かすことが求められる。



強化方策の体系

1. 中核拠点機能を支える都市基盤

- (1) 都市圏内ネットワークの強化
- (2) 中国地方の主要都市圏等とのネットワーク強化
- (3) グローバルゲートウェイ機能等の強化
- (4) 都心の機能強化
- (5) 市街地の高度化と計画的な市街地整備

2. 産業・経済的中核拠点機能

- (1) 中国地方の発展を牽引する産業集積拠点機能の強化
- (2) 都市型産業の集積促進
- (3) ものづくり産業の活性化
- (4) 産業人材の確保・育成
- (5) 産業支援機能の強化
- (6) 地域資源活用産業の育成・強化

3. 文化・社会的の中核拠点機能

- (1) 高次人材育成機能の強化
- (2) 高次文化・スポーツ機能の強化
- (3) 高次情報発信機能の強化
- (4) 高次医療・福祉機能の強化
- (5) 高次商業・エンターテインメント機能の強化
- (6) 広島都市圏における役割分担と機能強化方向

4. 国際交流機能

- 国際交流の推進
- 国際・平和貢献機能の強化
- など

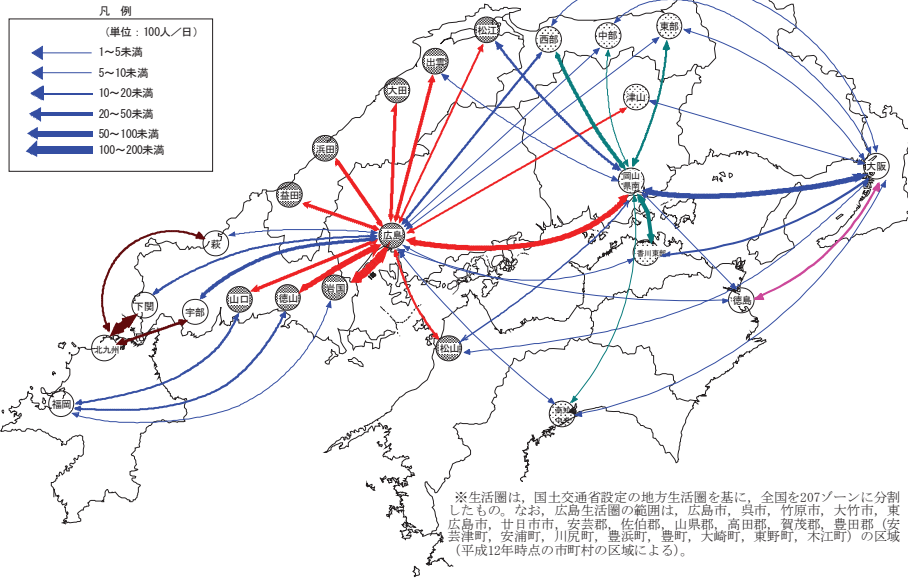
1. 中枢拠点機能を支える都市基盤

都市基盤の現状

経済圏の状況

- 人の交流量からみると、中国地方は、広島生活圏を核とし、岡山県南生活圏を副核とした構造となっている。(広島生活圏の交流圏は山口県東部・島根県に、岡山県南生活圏の交流圏は鳥取県に広がる)
- 他の地方中枢都市圏と比べると、地理的・地形的な制約により、広島都市圏は2時間圏の人口や面積が小さい。

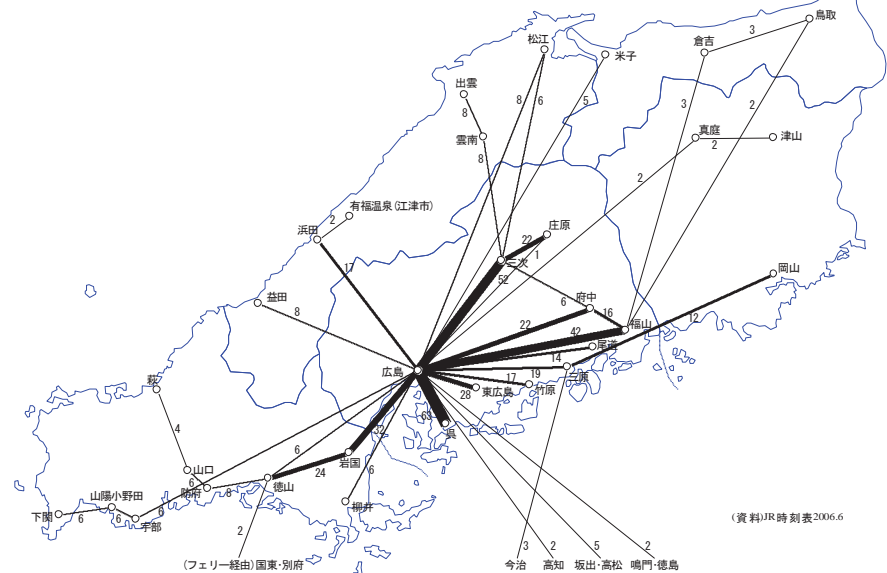
生活圏間旅客○D(平成12年)にみる広島の交流圏



交通ネットワークの状況

- 広島空港の国際定期路線数・乗降客数は中国地方の5割強を占めグローバルゲートウェイとしての役割を有する。しかし、広島市は他の地方中枢都市と比べ空港へのアクセス時間が最も長い。
- 中国地方の高速バス網は広島市が突出している。
- 広島都市圏の軌道系ネットワークは40km圏域で高頻度運行している。
- 都市内軌道系交通の面では、広島市では専用軌道でない路面電車のウエイトが高く、アクセス時間や定時性などの面に課題がある。

広島市と中国地方・四国地方各都市とを結ぶ高速バスネットワーク



都心の吸引力

- 広島市都心部では、駅乗車人員の減少や小売販売額のシェア低下など、吸引力の低下がうかがえる。

強化方策

(1) 都市圏内ネットワークの強化

- 都市間道路・都市高速道路等の整備
 - 東広島呉自動車道, 東広島バイパス・安芸バイパス, 岩国大竹道路, 広島高速2号線, 広島高速3号線, 広島高速5号線, 西広島バイパス都心部延伸の整備
- 広島南道路の整備
 - 広島南道路の整備と, 出島地区・五日市地区・廿日市地区の埋立・港湾整備事業の推進による広島湾沿岸のポテンシャル向上

- 新たな都市機能や都市整備の推進
 - 中枢拠点性を高める機能の導入・誘致や新たな都市開発事業について検討
- 構想段階の地域高規格道路等の整備推進
 - 地域高規格道路等の候補路線(益田廿日市道路, 南北線, 広島北道路等), 東部線都心部延伸(Ⅱ期区間)についての方向性の明確化
- J R呉線等の輸送力向上
 - J R呉線の輸送力の向上や可部線, 芸備線の機能発揮の方策について検討

(2) 中国地方の主要都市圏等とのネットワーク強化

- 中国横断自動車道尾道松江線の整備推進
- 地域高規格道路の整備推進
 - 東広島高田道路, 広島中央フライトロードの整備
- 物流効率化の推進
 - 船舶, 鉄道, トラックが連携した効率的で環境負荷の少ない物流機能の強化について検討

- 広島駅新幹線口の高速バスターミナル機能の強化
 - 主要都市との高速バス路線の強化, 広島空港へのリムジンバス機能の強化などに向けた広島駅新幹線口の高速バスターミナル機能の強化について検討
- 四国や九州との連携基盤の強化
 - 広島, 松山都市圏の連携強化などのための交通体系, 豊島大橋から西瀬戸自動車道につながるルートについての長期的視点に立った検討
 - 廃止航路の再開への取組について検討

(3) グローバルゲートウェイ機能等の強化

- 広島空港の機能強化とアクセス利便性の向上
 - 計器着陸装置の高度化(CAT-Ⅲa), 国際航空路線の拡充, 広域的なアクセス道路(中国横断自動車道尾道松江線, 東広島呉自動車道, 広島中央フライトロード, 広島高速道路, 東広島廿日市道路等)の整備, 冬場におけるJ R白市駅・広島空港間の定時性確保
- 国際港湾機能の充実
 - 広島港出島地区の港湾E D I[※]の運用などサービス充実やポートセールスによる国際定期航路の拡充, 広島港五日市地区等の港湾整備, 広島南道路の整備, 呉港・大竹港・岩国港の国際港湾機能の活用について検討

- 国際空港機能の強化と空港アクセスの向上
 - 広島空港の輸送人員500万人に対応した旅客ターミナルや貨物ターミナルの整備, 主要国際線のデیلیー化, 国内外路線ネットワークの拡大, 運用時間の延長などによる機能強化
 - 物流・生産・学術・情報・ビジネス・観光・レクリエーション機能等の集積による空港を中心とした圏域の活性化
 - 中国地方の主要都市からのリムジンバスの運行強化や広島駅新幹線口地区におけるバスターミナル機能強化について検討
- 中核国際港湾の機能強化と広島湾沿岸地域の将来ビジョンの検討
 - 広島港の物流拠点機能の強化への取組(国際定期コンテナ航路の新規開設・拡充や港へのアクセス改善, 国際複合一貫輸送の促進など)
 - 広島南道路の整備を見据えた広島湾沿岸地域の将来ビジョンの検討
- 空港機能のあり方の検討
 - 広島西飛行場の機能のあり方の検討

※港湾E D I: 港湾諸手続のワンストップサービスが可能な情報通信システム

(4) 都心の機能強化

- ①広島駅周辺地区
 - ヤード跡地地区開発の推進
 - 新球場の事業推進, 年間を通じた賑わいの創出
 - 広島駅周辺地区における再開発事業の推進
 - 新球場, 広島駅南口Bブロック市街地再開発事業, 若草町地区市街地再開発事業, 広島駅自由通路の整備
 - 広島駅新幹線口地区の総合的開発の検討(広島駅新幹線口中枢拠点ゾーン)
 - 広島駅新幹線口地区(二葉の里地区)の大規模国有地の有効な土地利用計画を立案し, 計画的な都市再開発を推進
- ②広島大学本部跡地地区
 - 広島大学本部跡地の有効活用の促進
 - 「ひろしまの『知の拠点』再生プロジェクト(仮称)」の実現に向けた取組

- ③都心核地区
 - 広島市民球場跡地利用の推進
 - 新たな都市機能の導入や周辺地域との回遊性の向上, 中央公園や基町環境護岸等の既存施設の利活用による一体的な賑わい空間づくりについて検討
 - 都心活性化プロジェクトの推進
 - 広島市の「ひろしま都心ビジョン」や「ひろしまビジターズ・インダストリー戦略」, 広島商工会議所の「都心活性化推進プロジェクト」に基づく多様な施策の推進
- ④都心アクセス
 - 都心アクセスの向上
 - 路面電車の機能強化, 交通系I Cカードシステムの導入を図るほか, 路面電車のルート変更・新設やアストラムラインとJ R山陽本線交差点への新駅設置, アストラムライン延伸計画について検討

(5) 市街地の高度化と計画的な市街地整備

- 土地区画整理事業等による市街地の高度化
 - 広島市東部地区連続立体交差事業, 土地区画整理事業(向洋駅周辺, 海田市駅南口地区, 段原東部地区, 廿日市駅北地区, 寺家地区, 八本松駅前地区), シビックセンターの整備(廿日市市), 可部駅西口広場整備, 西条駅地区交通結節点改善事業
- ひろしま西風新都・呉新世紀の丘の開発推進
 - 居住機能に加え産業・物流拠点等を形成

- 臨海部活力創造ゾーンの検討
 - 広島南道路の整備や広島港出島地区の埋立の進展などが見込まれる臨海部を新たな活力を創出するゾーンとして位置づけ, そのあり方を検討
 - 広島港廿日市地区の水面貯木場のあり方の検討

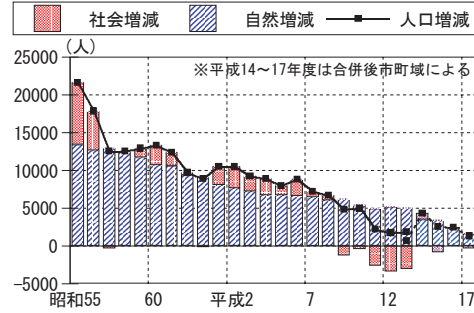
2. 産業・経済的中枢拠点機能

産業・経済的中枢拠点機能の現状

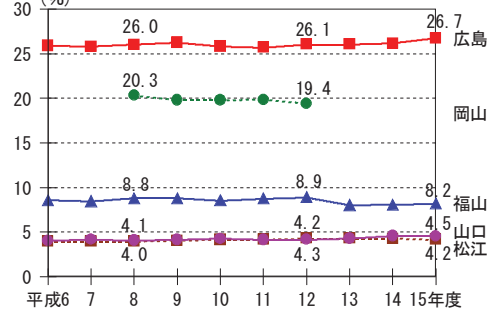
人口・産業からみた圏域の特性

- 広島都市圏の人口は、平成22年(187万人)をピークに減少に転じるとみられる。また、人口動態については、自然増が減少するとともに、社会増が縮小傾向にある。
- 広島都市圏の域内総生産(7.5兆円)は中国地方の27%を占め、全国や他の中国地方主要都市圏に比べると第3次産業(卸売・小売業, 飲食店, サービス業など)が多いことに特色がある。また、多彩な製造業が集積し製造品出荷額等も中国地方の20%強を占める。さらに、都市型産業も中国地方主要都市圏の中で圧倒的な集積を有する。

広島都市圏の人口動態



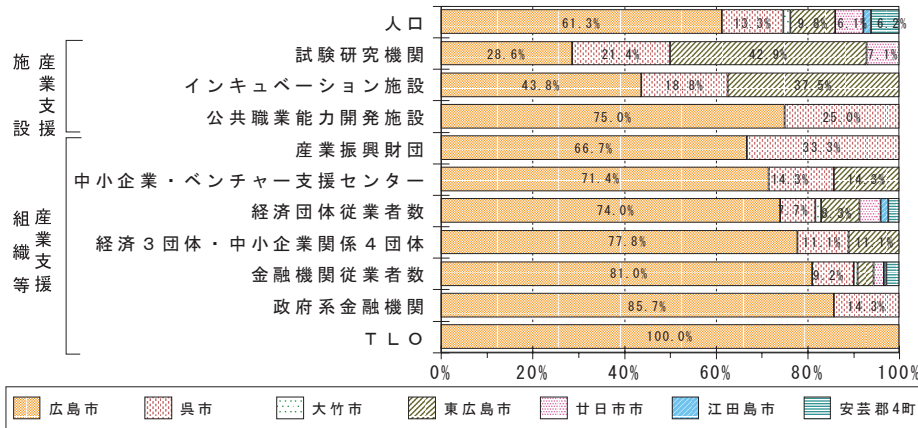
域内総生産の中国地方シェア



広島都市圏内の機能集積

- 広島都市圏内においては、試験研究機関やインキュベーション施設等の産業支援施設(ハード)は広島市のほか東広島市・呉市等にも多く立地するが、中小企業・ベンチャー支援センターや経済団体, 金融機関等の産業支援組織等(ソフト)は広島市への集積傾向が強い。

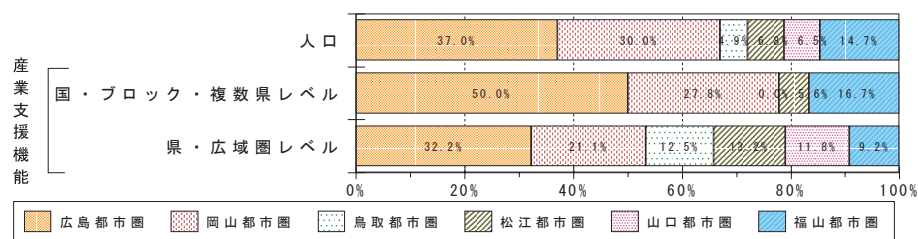
産業支援施設, 産業支援組織等の広島都市圏内集積状況(シェア)



中国地方における機能集積

- 中国地方主要都市圏と比較すると、国・ブロック・複数県レベルの産業支援施設や組織等は広島都市圏に集積しており、中国地方における広島都市圏の中核拠点性は高い。

サービスエリアレベル別みた産業支援機能の中国地方主要都市圏比較(シェア)



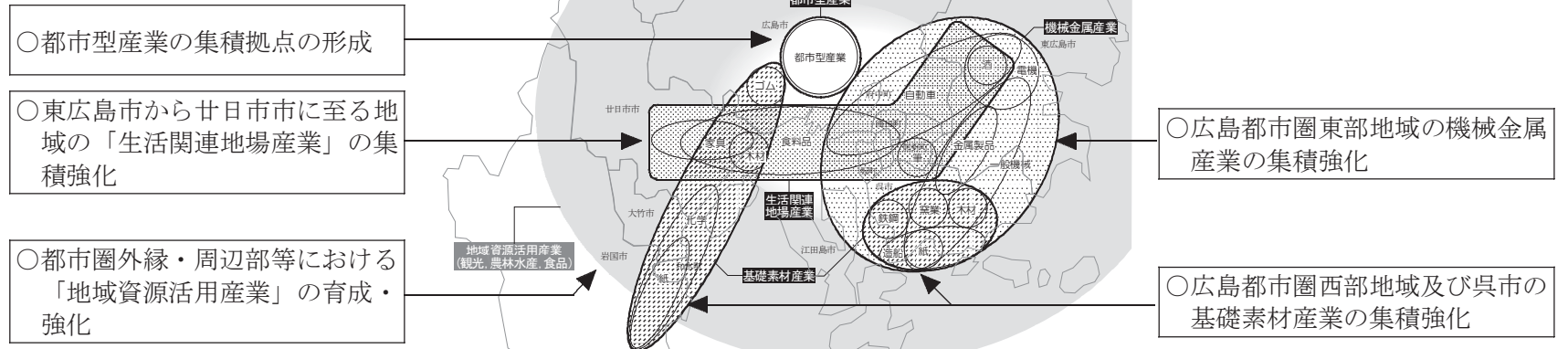
地方中枢都市圏比較

- 他の地方中枢都市圏との比較では、広島都市圏は、高次な国・ブロック・複数県レベルの施設や組織等の立地水準が低い。

強化方策

(1) 中国地方の発展を牽引する産業集積拠点機能の強化

既存の産業集積とともに、地域高規格道路等の整備効果を活かし、各産業・エリアにおける集積強化を図る。



(2) 都市型産業の集積促進

○都市型産業の政策的な立地誘導

ひろしま都市型サービス産業集積促進協議会の検討結果を踏まえた施策展開やデザイン関連産業育成の取組の推進

○民間の取組の推進

ポール・イマージュ・広島が行う映像コンテンツ産業の育成などの推進

○「交流・人材・ネットワーク」の多面的な施策の推進

インキュベーション・交流拠点の開設のほか、起業家や専門的・創造的人材の育成, 同業者・異業種や取引先とのネットワーク形成やマッチングを支援する仕組み・仕掛けの創出について検討

○都市型産業集積促進プロジェクトの展開

映像コンテンツ産業などの都市型産業の集積促進プロジェクトの検討

(3) ものづくり産業の活性化

○新規成長産業の育成と既存産業の競争力強化

中小・ベンチャー企業の支援や産学官連携による研究開発の推進などを通じた新規成長産業の集積促進, 自動車関連産業と電気機械産業の共同開発体制の構築などによるものづくり産業の競争力強化

○企業誘致の推進

情報通信・環境・バイオ等の新規成長産業を中心とした誘致活動の展開

○新たな地域クラスター形成プロジェクトの創設

バイオクラスターに加え, 新たな地域クラスター形成プロジェクト創設の検討

○都市圏レベルでの企業誘致連携体制の構築

外資系企業など, 成長が期待できる企業誘致に向けた都市圏レベルでの連携体制強化の検討

(4) 産業人材の確保・育成

○系統的なキャリア教育の推進

義務教育段階からの系統的なキャリア教育の推進

○学生・生徒の職業能力の強化

教育課程等の再編・充実, 産業界等と連携した日本版デュアルシステムやインターンシップの普及促進など

○専門職大学院等における高度専門職業人の育成

技術経営(MOT)教育の普及促進, ビジネススクール等の開設について検討

○技術・技能継承のための地域研修センター機能の整備

ものづくり技術・技能を継承する官民共同の地域研修センター機能整備の検討

(5) 産業支援機能の強化

○研究開発機能の強化

広島県産業科学技術研究所や県立広島大学における高度な研究開発の推進, 海外の先進的な研究機関との連携, 広島市立大学の情報研究センター(仮称)設置, (独)産業技術総合研究所中国センターや(独)酒類総合研究所等の活用

○高度なものづくり研究開発拠点の形成

県立総合技術研究所における戦略性を持った横断的・融合的な試験研究や技術移転の推進, 情報技術や産業デザイン部門の集約による高度なものづくり開発研究拠点の形成

○インキュベーション機能の強化

ベンチャービレッジひろしま等の既存施設の充実, 広島アニメーションセンター(仮称)の設置による都市型産業の集積促進

○産業支援組織等の充実

広島TLOを通じた技術移転などによる知的財産活用, 大学・試験研究機関等における産学官連携の推進, 中小・ベンチャー企業等への支援の充実

○ブロックレベルの産業支援機能の強化

既存施設の機能強化の促進, 中国地方を対象地域とする産業支援施設や組織等の誘致・整備の検討

○市町や都市圏レベルでの産業支援体制の強化

広島市産業振興センター, くれ産業振興センター, 呉地域中小企業支援センター, 東広島地域中小企業支援センター等を中心とした, 産学官連携の推進, ビジネス・インキュベーション(新事業創出)機能の強化など

(6) 地域資源活用産業の育成・強化

○観光・交流機能の強化

観光ルートの開発や都市観光, 産業観光, グリーンツーリズム, 健康増進・保養型観光等の新たな観光を含めた観光・交流機能の強化

○農林水産業や食品産業の活性化

6次産業化, 特産品の販路拡大や地域ブランド形成などの取組の推進

○インバウンド観光の振興

国際的知名度, 二つの世界文化遺産, ものづくり技術の集積などの活用や中国地方さらにはブロック外の都市圏との連携強化について検討

○新たな観光の振興

高次な都市機能の集積や水の都としての魅力, ものづくりの技術蓄積や多彩な産業の立地などの特色を活かした新たな観光振興策の検討

○伝統産業の活性化

熊野筆, 宮島細工, 広島仏壇等のブランド力強化による販路拡大, 文化的魅力を活かした産業観光の推進, 後継者育成など伝統工芸技術の円滑な継承

3. 文化・社会的な中枢拠点機能

強化方策

文化・社会的な中枢拠点機能の現状

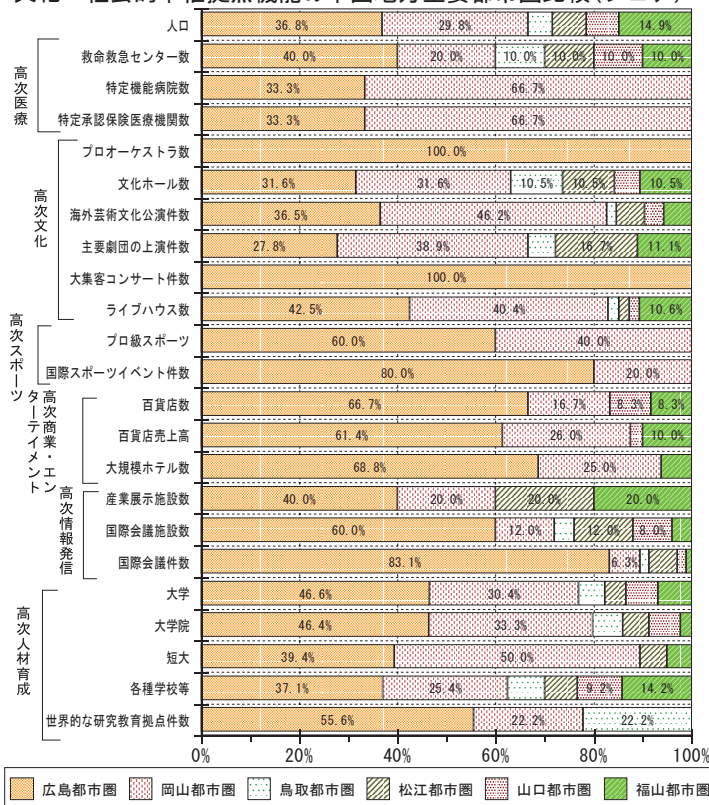
広島都市圏内の機能集積

○都市圏を越える広域圏を対象とするよりハイレベルな中枢機能（集積相乗効果型）を広島市が受け持ち、都市圏内を対象とした機能の一部を周辺市町が受け持っている。ただし、高次人材育成機能は、広島大学の移転により東広島市に集積している。

中国地方における機能集積

○中国地方における広島都市圏の機能集積度(22指標のシェアの平均値)は54%と突出して高い。特に、ハイレベルな高次文化・スポーツなどのソフト機能、高次商業・エンターテインメント機能や高次情報発信機能等の都市圏を越える広域圏を対象とした機能の集積度が高い。

文化・社会的な中枢拠点機能の中国地方主要都市圏比較(シェア)



地方中枢都市圏比較

○地方中枢4都市圏比較によると、広島都市圏は、都市圏を越える広域圏を対象とした機能が低位にあり、特に、大学院・21世紀COE研究等の高度な人材育成面の集積水準が低い。

国際交流機能の現状

○広島都市圏内における国際交流機能は、広島市への集中傾向が顕著である。
 ○中国地方主要都市圏と比較すると、高次レベルの機能ほど広島都市圏への集中傾向が顕著であり、広島都市圏の高い中枢拠点性が表れている。
 ○地方中枢4都市圏比較によると、広島都市圏は、国連機関(ユニタール*)、国際交流機関、世界遺産、外資系企業(マツダ等の立地)の集積などの強みがあるが、(総)領事館・名誉領事館、国際会議開催件数、外国会社従業員数などの集積水準が低い。

*ユニタール：国連訓練調査研究所

(1) 高次人材育成機能の強化

○**大学機能の充実**
 広島県立大学の公立大学法人化及び教育・研究機能や地域貢献機能の強化、広島国際大学工学部や安田女子大学薬学部の設置等による大学機能の充実
 ○**大学院機能の充実**
 山口大学のMO T広島教室の開校などによる機能の充実
 ○**広島大学の機能充実と広域的な活用**
 教育・研究体制の整備、大学機能を広域的に活用する仕組みづくり

○「ひろしま『知の拠点』再生プロジェクト」の促進
 広島大学本部跡地における国際大学院や社会人再教育センター等の整備
 ○**サテライトキャンパス機能の充実**
 広島市都心部における高次人材育成機能の強化の検討
 ○**イノベーションを担う人材育成**
 大学や試験研究機関の連携による経営や販路開拓等のプログラム開発や講座開設のほか、首都圏や海外で活躍する人材と連携した人材開発の仕組みづくりについて検討

(2) 高次文化・スポーツ機能の強化

○**広島県立文化芸術ホールの整備**
 芸術文化の拠点としての運営
 ○**博物館機能の充実**
 「てつものくら館」の整備、筆の里工房の内容やイベントの充実
 ○**新球場の建設**
 ○**厚生年金会館のホール機能の維持**

○**新たな高次文化機能の充実**
 ロングラン公演が可能な常設劇場の設置や若者文化の育成、アニメーション資源を活かした高次文化機能の充実のほか、「錦帯橋と岩国の町割」の世界文化遺産への登録など既存の資源を活用した新たな取組について検討
 ○**国際的・全国的な文化イベントの実施**
 宇宙科学博覧会の開催や全国書画展覧会の拡充について検討
 ○**拠点スポーツ施設の整備・国際スポーツイベントの実施**
 サッカー専用スタジアムの建設やトライアスロン国際大会の開催などについて検討

(3) 高次情報発信機能の強化

○**メッセ・コンベンション機能の強化**
 広島市出島地区における施設整備のあり方の検討
 ○**国際会議機能の強化**
 既存の施設を活かした国際会議誘致、宮島の観光機能を活用した特色のある国際会議機能の創出の検討

(4) 高次医療・福祉機能の強化

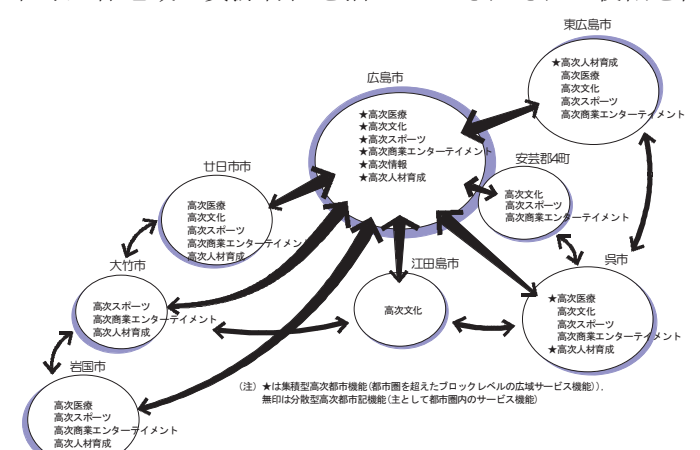
○**がん診療連携拠点病院の充実**
 緩和ケアコーディネータの配置やデイホスピスの開設など
 ○**高度医療・福祉機能の充実**
 県立広島病院への成育医療センター(仮称)の設置、広島市総合リハビリテーションセンター(仮称)や広島大学放射線がん治療施設(仮称)の整備

(5) 高次商業・エンターテインメント機能の強化

○**商業・業務機能等の強化**
 広島駅南口Bブロック市街地再開発事業による商業・業務機能等の整備、広島駅新幹線口の若草町地区市街地再開発事業による大型ホテルの整備
 J T広島工場や三菱重工祇園工場跡地等を活用した大規模商業機能の整備
 ○**賑わい・魅力の創出**
 平和大通りリニューアルやリバーフロントを活用した賑わい形成、海洋レクリエーション拠点の整備など
 ○**都市圏周辺部における高次・商業エンターテインメント機能の充実**
 都市型ホテルの整備、バイサイドビーチ坂の整備など
 ○**森林を活かしたレクリエーションゾーンの整備**
 広島市から府中町にかけての丘陵地域における森林を活かしたレクリエーションゾーンの一体的整備などの検討

(6) 広島都市圏における役割分担と機能強化方向

○広島市はブロックレベルの高次都市機能を多面的にグレードアップ
 ○周辺市町は各地域の資源特性を活かしてそれぞれの役割を高める



4. 国際交流機能

強化方策

○**平和市長会議の取組の拡充**
 加盟都市との連携強化や加盟都市数の増加など、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた取組の推進
 ○**ひろしま版プラットフォームの構築**
 多様な主体が協働して平和貢献を推進するための仕組みの構築
 ○**国際交流の活発化**
 中国・ブラジル等の外国政府公館や国際的イベントの誘致、地域企業の国際事業展開への支援や外国企業の対内投資の促進
 ○**国際・平和貢献機能の強化**
 アジア等の留学生や研修生の受け入れ・支援やネットワーク化など国際的な人材育成拠点機能の充実・強化の検討、放射線影響研究所の拡張移転の促進

○**新たな国際貢献・交流への取組**
 平和記念式典に合わせた国際会議の開催や国際平和関連国際機関の誘致などについて検討
 ○**国際文化・スポーツイベントの開催・誘致**
 演劇、映画、音楽等の国際的な芸術祭の創設のほか、国際的アーティストの公演や作品・展覧会、国際総合競技大会や各競技別の世界大会などの開催・誘致について検討
 ○**メッセ・コンベンション機能の強化**
 国際会議等の誘致、メッセ・コンベンション施設の整備・活用の検討
 広島市出島地区における施設整備のあり方の検討

県の上位計画（施策の方向性）

（1）広島県の目指す姿

広島県では、「将来にわたって、『広島に生まれ、育ち、住み、働いてよかった』と心から思える広島県の実現」を基本理念とし、概ね10年後を展望した施策の取組の方向性を、「ひろしま未来チャレンジビジョン」として、平成22年10月にとりまとめました。

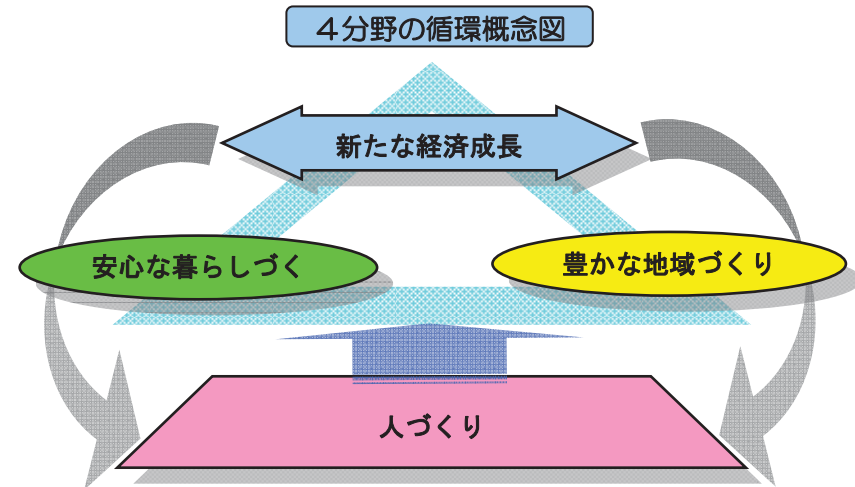
（チャレンジビジョンより抜粋）

経済が成長すれば、雇用を通じて家計に富が配分され、県民が生活する上での経済的基盤が確立し、自立した生活を送ることができるようになります。また、税収が確保されることで、県民の生活を支える医療、福祉、教育、社会資本など、生活に必要なインフラや安心をもたらすセーフティネットの確保に必要な行政サービスが維持できます。これにより、県民に住みやすさや安心がもたらされ、地域の総合的な魅力が高まっていきます。

こうした地域の魅力にひかれ、人やモノが本県に集まり活性化することで、更に経済が成長するという正の循環が形成されることとなります。

このような観点から、県民と共に「目指す姿」を実現するため、「人づくり」、「新たな経済成長」、「安心な暮らしづくり」、「豊かな地域づくり」の4つの政策分野ごとに「目指す姿（将来像）」を掲げ、本県の「強み」を最大限に活かして様々な挑戦を行います。

4つの挑戦は相互に関連するシステムとして一体的に推進する必要がありますが、4つのシステムで好循環を形成するためには、推進力が必要との視点で、まずは、雇用や所得を生み出す「新たな経済成長」をエンジンと位置付け、積極的に推進します。あわせて、「人づくり」は、全ての挑戦に共通する基盤であり、着実に取り組みます。



分野別の目指す姿

人づくり

これからの本県を内外から支える人材の育成、人をひきつける就業機会の創出など全ての県民が輝く環境の整備により、人が集まり、育ち、生き生きと活躍しています。

教育	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが、将来にわたってたくましく生きる力を持ち、健やかに育っています。 グローバルな感覚を持った人材が育ち、企業や地域社会などで活躍しています。 若者が、社会に貢献できる資質や能力を身に付けています。 社会人が、働きながらスキルの向上や、社会の変化等に対応した新たなスキルの取得を積極的に目指せる環境が整っています。
多様な主体の社会参画	<ul style="list-style-type: none"> 性別・年齢等にかかわらず、全ての県民が活躍できる環境が整っています。
人が集まり定着する環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 広島県の魅力にひかれ国内外から人が集まるとともに、広島県で育った人が県内に定着する環境が整っています。

新たな経済成長

新たな挑戦を行う企業や人が活発に活動し、イノベーションを通じて新しい経済成長のステージが生まれることで、魅力のある雇用・労働環境が創出され、県民が将来に向けて大きな希望が持てる強固な経済基盤が整っています。

新たな産業・基幹産業	<ul style="list-style-type: none"> ものづくり産業における世界トップレベルの技術の集積を生かしつつ、新しい産業が生まれ育ち、社会経済情勢や市場の動向に、柔軟かつ確に対応できる「イノベーション立県」が実現しています。 新たな挑戦や意欲ある取組が活発に行われ、アジアを中心とする成長市場を獲得しています。
農林水産業	<ul style="list-style-type: none"> 農林水産業が自立した産業として確立し、生産から販売まで一体的な取組が活発に行われ、若者を含む新たな雇用を創出するなど、地域産業の核となっています。
観光	<ul style="list-style-type: none"> 「ひろしまブランド」や「瀬戸内ブランド」が確立され、国内外から訪れる多くの人々に感動と癒しを与えるとともに、県民にとっても世界に誇れる観光地となっています。 本県産業の柱である「ものづくり」に加え、観光が成長を支える産業の一つとなっています。
産業人材・就労	<ul style="list-style-type: none"> 経営能力や高度な技術・技能を備えた多彩な産業人材の育成・集積が進み、イノベーションを生み出す源泉となっています。 働く意欲のある人が県内で活躍するために、産業構造の変化に柔軟な対応ができる労働市場が形成されています。
交流・連携基盤	<ul style="list-style-type: none"> 人やモノが集まり、国内外との交流が盛んに行われています。

安心な暮らしづくり

医療・福祉・子育てなど、県民生活に直結した課題について、企業、団体、県民などの様々な主体と連携して、社会全体でその課題解決に取り組み、全ての県民が安心して生活し、幸せを実感できる環境が整っています。

医療	<ul style="list-style-type: none"> 地域に必要な医師等が確保され、安心できる医療サービスを受けることができます。 総合的ながん対策が日本一進んでいます。
健康	<ul style="list-style-type: none"> 県民が生涯にわたり健康で暮らすことを応援する仕組みが整っています。
福祉・介護	<ul style="list-style-type: none"> 支援や介護が必要な人が、地域で安心して生活できる環境が整っています。
子育て	<ul style="list-style-type: none"> 県民が生き生きと暮らし、「子育てするなら広島県で！」と選ばれる環境が整っています。
環境	<ul style="list-style-type: none"> 環境への負荷の少ない持続可能な社会の仕組みが構築されています。
防災・防疫	<ul style="list-style-type: none"> 社会全体で取り組む防災協働社会が実現しています。 健康危機管理体制が整備されています。
消費生活	<ul style="list-style-type: none"> 食品の安全の確保など、消費者の安全・安心を守る仕組みが構築されています。
治安	<ul style="list-style-type: none"> 治安が向上し、日本一安全・安心な広島県になっています。

豊かな地域づくり

それぞれの地域が、県民や市町を始め企業や地域活動団体とも連携しながら、自らの創意工夫で多様性の中から新たな活力を生み出し、住みやすく個性ある豊かな地域になっています。

県民主役型地域社会	<ul style="list-style-type: none"> 自立性を持って連携し支え合う多様な主体の活動により、地域社会が活性化しています。
地域資源活用・地域情報化	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特性や資源を生かした産業が営まれ、身近な自然環境や景観の保全、伝統文化や行事の継承など、地域の価値を高める様々な取組が地域ブランドとなり、人々が誇りと愛着を持って生き生きと暮らしています。 様々な生活場面で情報通信技術が活用され、利便性が向上しています。
都市地域	<ul style="list-style-type: none"> 機能的で魅力的な市街地や施設等が整備され、都市的機能が提供されています。
中山間地域	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活を支える機能が確保されるとともに、地域の特性や資源を生かした産業により地域の将来を担う若者などの就業の場が確保され、里山に象徴される人と自然が作り出す中山間地域ならではの環境の中で、ゆとりある生活が営まれています。
和貢献	<ul style="list-style-type: none"> 世界で最初の被爆地として、広島県の国際平和の拠点化が進んでいます。

広島圏域の都市計画区域マスタープランの概要（平成23年9月策定）

（計画期間：平成23～32年）

将来像

■ 広島圏域の現状と基本目標

広島圏域の現状

●産業構造

- ・加工型産業を主とした「ものづくり」産業、情報通信機械器具製造業など、工業において多様な産業集積
- ・世界的な景気後退の影響懸念。経済のグローバル化を背景とした地域間競争の激化
- ・長期にわたる年間商品販売額の減少

●都市構造

他の地方中枢都市圏と比較して一部高次都市機能の集積が不十分

●交通構造

- ・一極集中型道路構造による交通渋滞・混雑
- ・各市町から広島空港、産業団地・物流拠点から高速道路インターチェンジへのアクセス強化が必要な地域が存在

●自然環境

都市周辺に西中国山地国定公園、瀬戸内海国立公園といった自然公園等豊かな自然が存在

●人口構造

- ・少子・高齢化及び核家族化の進展
- ・就職を控えた若年層を中心とした社会減少、将来的な人口の減少

●生活流動

広島市への強い生活機能依存

●都市構造

道路、下水道など生活基盤の整備水準が未だ低位

●産業構造

- ・国際的知名度の高い観光資源の存在（2つの世界文化遺産）
- ・総観光客数の増加・県外客の比率大
- ・他の地方中枢都市圏中心市と比較すると、広島市はホテル客室数、宿泊客数及び入込み観光客数がともに低水準

●自然環境

土砂災害や大規模地震など、自然災害に対する脆弱さ

●人口構造

少子・高齢化の進展

●まちづくりへの市民参画

- ・まちづくり活動を営むNPO法人数の増加
- ・マイロード団体数、ラブリバー加入団対数の増加

広島圏域の課題

産業の活性化と新産業の創出

- ・産業活力の低下を打開するための既存産業の活性化と地域性を踏まえた新たな産業の創出が必要

高次都市機能の充実・強化

- ・特に、高次人材育成、高度医療、国際交流や産業支援機能などの分野において充実と強化が必要

広域的な移動の速達性・定時性の確保が課題

都市と自然の共生

- ・瀬戸内海や山間部の豊かな自然環境と高次都市機能が集積した都市との共生と融和は重要

都市機能の集約化

- ・適切な立地コントロールを通じた都市機能の集約化を進めることで各都市の拠点機能の強化が必要

社会基盤の整備

- ・産業、医療、教育等の集積が十分でないことを背景とした、広島市への集中的な依存傾向
- ・生活交通の確保や社会基盤の整備が急務

地域資源の活用によるにぎわいの創出

- ・世界文化遺産や各都市に分布する多様な歴史・文化遺産、豊かな自然的環境を有効に利活用
- ・交流人口の増加と圏域のにぎわい創出が必要

災害に強い安全なまちの構築

誰もが安心・快適に生活できる交通環境の整備が必要

まちづくりへの住民参加

- ・行政、住民、NPOなどの協働によるまちづくりへの更なる取組みが必要

中国地方の自立的発展を牽引する
“中枢圏域ひろしま”

基本目標

活力を生み出すまちづくり

- ・広島中枢都市圏を中心とした高次都市機能の集積・強化
- ・広域幹線道路網及び広域公共交通ネットワークの強化
- ・都市交通の高速性・定時性強化、都心と広島空港や広島港などとのアクセス強化のための広島高速道路などの整備促進
- ・東・東南アジア地域をはじめとした、国際交流拡大を見据え、国際競争力のある物流拠点機能などの向上のため、特定重要港湾を中心とした港湾機能の強化

持続可能なまちづくり

- ・環境への負荷の少ない持続的な発展が可能な低炭素型のまちづくり
- ・中山間部や島しょ部においては、エリア内の各地域拠点を結ぶ、循環バスや地域生活バスなど利便性の高い生活交通体系の確立
- ・瀬戸内海国立公園や西中国山地国定公園などの自然公園地域の保護及び利用の増進
- ・森林が持つ県土保全、水源の涵養、保健休養などの公益的機能が十分発揮されるよう保全を図る。

個性あふれるまちづくり

- ・“ヒロシマ”の知名度や、瀬戸内海や2つの世界文化遺産など世界に誇れる地域資源を積極的に活用し、中四国地方はもとより国内外との交流拡大を促進
- ・各都市に分布する多様な歴史・文化などの地域資源を活用し、これを活かした都市景観の形成に努めるなど、住民や来訪者がその都市にしかない個性を感じられる都市づくり
- ・瀬戸内海の多島美や、西中国山地国定公園に代表される豊かな自然環境など、都市周辺地域の魅力を活かしたまちづくり

安全で安心なまちづくり

- ・公共公益施設の耐震化の促進、被害を最小化するための減災対策を図り、災害に強い安全なまちづくり
- ・公共空間・公共交通のバリアフリー化の推進
- ・ユニバーサルデザインに配慮した情報の提供・発信

みんなで創るまちづくり

- ・まちづくりにおいてもNPO・ボランティア団体などの多様な主体の参画と役割分担を促進するための環境整備

都市計画区域の将来像と基本目標の概要

各都市計画区域マスタープランにおける将来像と基本目標の概要は次のとおりです。

広島圏都市計画区域

【区域の将来像】中国地方の先進的な高次都市機能を担う中枢都市圏

■活力を生み出すまちづくり

○広島市を中心としたエリア

県外をもサービス圏域とし、広域的影響のある、高次都市機能の集積・強化により中枢拠点性の向上を図り、中国地方の発展を牽引するグローバルな都市づくりを目指します。

○呉市のエリア、廿日市市・大竹市のエリア

広島中枢拠点の役割を分担する拠点として、呉市のエリアでは医療、教育分野、廿日市市・大竹市のエリアでは国際観光交流、医療分野の高次都市機能の集積・強化を図り、活力あふれるいきいきとした都市づくりを目指します。

■持続可能なまちづくり

○広島市を中心としたエリア、廿日市市・大竹市のエリア

将来の人口減少に対応して都市機能の集約を図るとともに、公共交通の利便性向上などを通じて、環境負荷の低減に資する都市づくりを目指します。

○呉市のエリア

JR 駅周辺等を核として、都市的機能の集積した集約型都市構造の形成を目指します。

■個性あふれるまちづくり

○広島市を中心としたエリア、廿日市市・大竹市のエリア

世界文化遺産「原爆ドーム」、厳島神社」を活かし、広域観光ルート形成など連携を図りつつ、国内外との交流拡大を促進し、にぎわいある都市づくりを目指します。

都市周辺に広がる山や川、海など都市景観上も貴重な自然的環境の保全を図り、都市と自然が調和し、一体的で質の高い都市環境や都市景観の形成を図ります。

○呉市のエリア

大和ミュージアム、入船山記念館、重要伝統的建造物群保存地区の豊町御手洗地区の歴史的まちなみなど個性豊かな地域資源を活かして、県内外の交流を育むにぎわいを創造します。

瀬戸内海国立公園など恵まれた自然環境や自然景観などを保全し、都市と自然が調和した、一体的で質の高い都市環境・都市景観の形成を図ります。

全ての都市計画区域マスタープランに共通の目標

■安全で安心なまちづくり

総合的・効果的な土砂災害対策、治水対策に努めるとともに、ハザードマップの作成促進などソフト対策を推進することで災害に強い安全なまちを目指します。

情報通信基盤の整備を促進し、防災、医療、交通など様々な情報を迅速に提供することで、安心して暮らせるまちを目指します

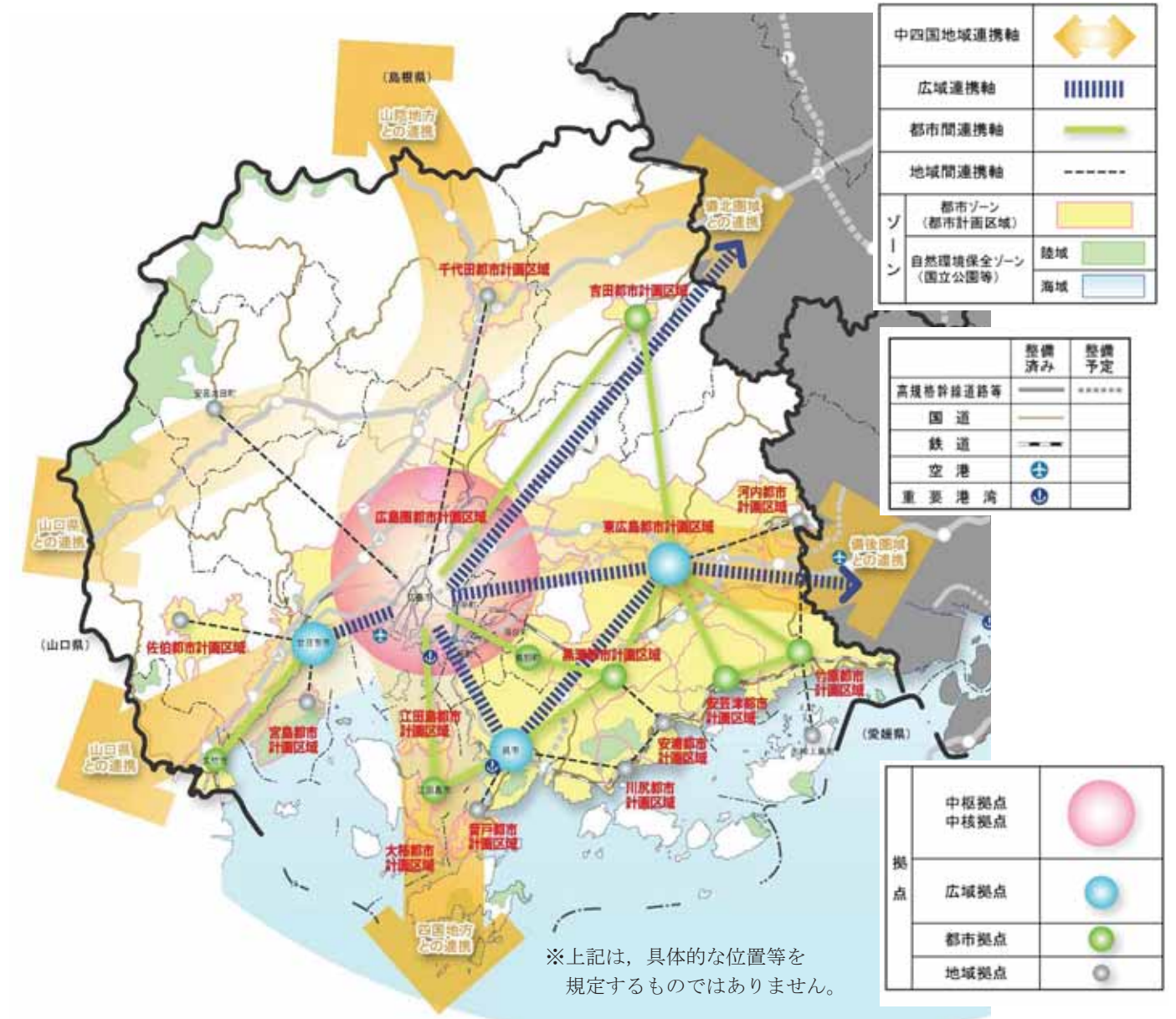
一方、地域の治安維持・向上のため、住宅の防犯性向上などの防犯設備の整備を推進するとともに、地域コミュニティ形成などのソフト対策を推進し、防犯機能の強化を図ります。

公共空間・公共交通のバリアフリー化の推進に加えて、ユニバーサルデザインに配慮した情報の提供・発信を行いだれもが安心できる都市環境を目指します。

■みんなで創るまちづくり

従来の「公共的なことはすべて行政が行うべき」との考え方を変え、まちづくりにおいても、NPO・ボランティア団体などの多様な主体の参画と役割分担を促進するための環境整備に努めます。

広島圏域の将来都市構造図



拠点の区分	位置付け	配置
中枢拠点	高次都市機能の集積・強化により中国地方の発展にあたって中枢となる拠点	広島市中心部、府中町中心部 海田町中心部、坂町中心部
広域拠点	都市機能及び一部高次都市機能の集積を図り、中枢拠点の都市機能を一部分担する拠点	呉市中心部、東広島市中心部 廿日市市中心部
都市拠点	都市機能の集積を推進し、広域拠点による機能補完を受けつつも、一定程度の独立性を持つ拠点	大竹市中心部、熊野町中心部 安芸高田市中心部、江田島市中心部 旧黒瀬町中心部、竹原市中心部 旧安芸津町中心部
地域拠点	中枢、広域、都市拠点による機能補完を受けつつも、日常生活面での都市機能を集積する拠点	都市拠点以外の都市計画区域を有する地域の中心部や都市計画区域の指定のない町の中心部

軸の区分		配置
中四国地域連携軸		広域公共交通や高規格幹線道路で隣接圏域若しくは、広島県と隣県を結ぶ軸
都市軸	広域連携軸	中枢拠点と広域拠点、及び広域拠点同士を結ぶ地域高規格道路、主要な国道及び鉄道等
	都市間連携軸	広域拠点と都市拠点、及び都市拠点同士を結ぶ国道、県道、航路等
	地域間連携軸	都市拠点と地域拠点を結ぶ県道・航路等

主要な都市計画決定の方針の概要

1. 区域区分の有無及び決定の方針

- 現在区域区分を定めている広島圏、東広島、黒瀬の各都市計画区域は引き続き区域区分を堅持し、現在区域区分を定めていない宮島都市計画区域他11都市計画区域は引き続き区域区分を定めません。

2. 土地利用に関する主要な都市計画決定の方針

- (1) 基本方針
- 広域交通ネットワークの強化などを通じた都市間の広域的な連携・交流促進を促進するとともに、広島中枢都市圏を中心に高次都市機能の集積・強化を図ります。
 - 都市周辺においては、良好な自然的環境が形成されており、県土保全、水源の涵養、保健休養、レクリエーション機能等の公益的な機能が発揮できるよう保全を図ります。
 - 既成市街地内の低未利用地の有効・高度利用による、都市内居住環境の整備を図ります。

(2) 市街化区域内における土地利用の方針

- 高次人材育成、高度医療、国際交流や産業支援などの多彩な都市機能を十分に発揮することのできる土地利用を図ります。

(3) 市街化調整区域内における土地利用の方針

- 無秩序な市街化を抑制するとともに、良好な都市環境の維持及び災害防止等の観点から市街化区域周辺の緑地の保全を図ります。

3. 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針

(1) 交通体系の整備方針

- 圏域の一体性を高めるため、国内外・隣接県・圏域内外・都市内の総合的な交通ネットワークの確立を図ります。
- 交通結節点等の機能強化を促進し、都市内の円滑な交流連携に資するネットワークの強化を図ります。
- 効率的な渋滞対策を図り、低炭素型のまちを構築します。
- 積載効率の向上による都市内の渋滞緩和を進めるため、共同輸配送のための都市内拠点や共同荷捌き施設の設置等による物流の効率化に努めます。
- 自動車中心の交通から環境負荷の少ない交通体系への転換を促進するとともに、交通施設の整備に当たっては、バリアフリー化やユニバーサルデザインに配慮した情報の提供・発信を推進します。

■ 広島圏域 交通施設の整備方針図



(2) 空港及び港湾の整備方針

- 広島空港は、中国・四国地方の発展を牽引していくための重要な基盤であることから、産業振興や観光振興など更なる広域的な交流連携の促進を図るため、グローバルゲートウェイ機能の一層の強化を推進します。
- 特定重要港湾広島港や重要港湾呉港においては、中国地方の物流、産業の拠点として、物流需要の増大、輸送の効率化に対応するため、グローバルゲートウェイ機能の強化や航路機能の回復を推進するとともに、物流・人流の拠点として快適な港湾空間の形成を図ります。

(3) 下水道及び河川の整備方針

- 下水道については、圏域内での整備状況に格差があり、整備の遅れている都市周辺部の整備促進を図るとともに、都市型浸水を防止し、大雨にも安全な都市づくりを推進します。
- 河川については、高潮や浸水被害などの水害を防止し、安全で快適な都市生活の場を確保するための適切な治水対策を図るとともに、親水機能等を付加することによる景観や環境の改善を行い、人々に潤いとふれあいを提供できる良好な河川空間の創造を図ります。
- 地形的制約から山際や土石流の危険性がある谷の出口まで開発により拡大してきた住宅地について、がけ崩れによる土砂災害から人命・人家及び公共施設等を保全するため急傾斜地崩壊対策を推進するとともに、土石流危険渓流等に砂防堰堤や渓流保全工を整備し、土石流災害の防止・軽減を図ります。

■ 広島圏域 下水道及び河川の整備方針図

都市計画区域	
事業対象水系	
河川	
多目的ダム	
治水ダム	
公共下水道エリア	



※上記は具体的な位置を規定するものではありません。

4. 市街地開発事業に関する都市計画の決定の方針

- 土地区画整理事業、市街地再開発事業、及び誘導都市計画（再開発等促進区を定める地区計画等）といった手法を地域特性に応じて適切に選択、活用して、周辺環境への十分な配慮を行いながら道路、公園等の都市施設との一体性、整合性を図り事業を推進します。

5. 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針

- 豊かな自然環境の持つ保健・レクリエーション機能を保全します。
- 自然公園や瀬戸内海の島々等の美しく豊かな自然環境など、特徴的で優れた地域資源の持つ各種機能を地域特性に応じて積極的、かつ有効に活用し、個性あるまちづくりを進めます。

6. 歴史・景観に配慮した都市計画の決定の方針

- 世界文化遺産である厳島神社や原爆ドームをはじめとする多様な歴史・文化などの地域資源が点在しており、それらの地域では歴史・文化的な空間と生活の場としての空間を調和させた一体的な都市景観の形成・保全に努め、その都市にしかない個性や魅力を感じられる都市づくりを推進します。

広島都市圏における主な施設の設置状況(類似都市圏との比較を含む)

(1万人当たり)

区分	施設	指標	広島都市圏(A)	類似都市圏				比較 (A-B)/B	
				平均(B)	札幌	仙台	福岡		
都市圏人口		—	1,955,657人	2,514,930人	2,487,761人	1,892,971人	3,164,059人		
1 観光交流・アミューズメント機能	1-1 アミューズメント機能	テーマパーク、遊園地	テーマパーク・遊園地施設数	該当施設なし	1.3か所 (0.006か所/万人)	1か所 (0.004か所/万人)	2か所 (0.011か所/万人)	1か所 (0.003か所/万人)	-100%
		水族館	水族館数	1か所 (0.005か所/万人)	1.3か所 (0.005か所/万人)	2か所 (0.008か所/万人)	1か所 (0.005か所/万人)	1か所 (0.003か所/万人)	±0%
		動物園	動物園数	1か所 (0.005か所/万人)	1.7か所 (0.006か所/万人)	1か所 (0.004か所/万人)	1か所 (0.005か所/万人)	3か所 (0.009か所/万人)	-16%
	1-2 展望機能	展望タワー	展望タワー施設数	該当施設なし	2.0か所 (0.008か所/万人)	3か所 (0.012か所/万人)	1か所 (0.005か所/万人)	2か所 (0.006か所/万人)	-100%
	1-3 産業振興機能	メッセ施設・コンベンション施設	展示場として活用可能なアリーナ部分の面積	9,856㎡ (50㎡/万人)	20,468㎡ (77㎡/万人)	24,651㎡ (99㎡/万人)	7,500㎡ (40㎡/万人)	29,252㎡ (92㎡/万人)	-35%
	1-4 商業機能	ショッピングセンター・アウトレットモール	百貨店(店舗面積15,000㎡以上)、大規模商業施設(店舗面積20,000㎡以上)、アウトレットモールの総店舗面積	572,140㎡ (2,926㎡/万人)	809,205㎡ (3,143㎡/万人)	667,514㎡ (2,683㎡/万人)	557,777㎡ (2,947㎡/万人)	1,202,324㎡ (3,800㎡/万人)	-7%
1-5 飲食物販機能	屋台村	屋台村数	1か所 (0.005か所/万人)	1か所 (0.003か所/万人)	1か所 (0.004か所/万人)	該当施設なし	2か所 (0.006か所/万人)	+67%	
2 文化・芸術創造機能	2-1 文化機能	劇場、ホール	公立文化ホール(座席数1,000席以上)の座席数	12,508席 (64席/万人)	15,408席 (63席/万人)	11,419席 (46席/万人)	14,982席 (79席/万人)	19,824席 (63席/万人)	+2%
		アニメ・マンガ拠点	アニメ・マンガの拠点施設数	該当施設なし	該当施設なし	該当施設なし	該当施設なし	該当施設なし	-
	2-2 芸術創造機能	美術館	美術館(展示面積1,000㎡以上)の展示面積	9,364㎡ (48㎡/万人)	6,636㎡ (26㎡/万人)	4,990㎡ (20㎡/万人)	4,951㎡ (26㎡/万人)	9,967㎡ (32㎡/万人)	+85%
		芸術文化活動拠点	公立文化ホール(座席数500席以上1,000席未満)の座席数	12,537席 (64席/万人)	9,942席 (37席/万人)	3,176席 (13席/万人)	6,867席 (36席/万人)	19,782席 (63席/万人)	+73%
	2-3 教養機能	博物館	博物館(展示面積1,000㎡以上)の展示面積	9,484㎡ (48㎡/万人)	15,399㎡ (61㎡/万人)	17,334㎡ (70㎡/万人)	11,115㎡ (59㎡/万人)	17,748㎡ (56㎡/万人)	-21%
図書館		公共図書館(蔵書数20万冊以上)の蔵書数	251万冊 (1.3万冊/万人)	333万冊 (1.3万冊/万人)	330万冊 (1.3万冊/万人)	266万冊 (1.4万冊/万人)	404万冊 (1.3万冊/万人)	±0%	
3 スポーツ機能	サッカースタジアム	Jリーグが開催可能な専用スタジアム(野球、ラグビーとの兼用含む)の収容人数	該当施設なし	40,162人 (156人/万人)	53,738人 (216人/万人)	19,694人 (104人/万人)	47,053人 (149人/万人)	-100%	
	複合スタジアム	サッカーやコンサート等が可能なドーム型複合スタジアムの収容人数	該当施設なし	29,632人 (109人/万人)	53,738人 (216人/万人)	該当施設なし	35,157人 (111人/万人)	-100%	
	野球場	プロ球団の本拠地球場の収容人数	33,000人 (169人/万人)	37,307人 (150人/万人)	53,738人 (216人/万人)	23,026人 (122人/万人)	35,157人 (111人/万人)	+13%	
4 平和発信機能	平和博物館	平和に関する博物館数	2か所 (0.010か所/万人)	0.3か所 (0.001か所/万人)	該当施設なし	該当施設なし	1か所 (0.003か所/万人)	+900%	
	平和運動の拠点	平和に関する国連機関・研究施設数	2か所 (0.010か所/万人)	該当施設なし	該当施設なし	該当施設なし	該当施設なし	∞	
5 緑地広場機能	緑豊かなオープンスペース(芝生広場、都市の森、子どもの遊び場、噴水や池)	都市公園等(市内)の面積	860ha (4.4ha/万人)	1,660ha (6.8ha/万人)	2,344ha (9.4ha/万人)	1,293ha (6.8ha/万人)	1,342ha (4.2ha/万人)	-35%	

備考:()は、都市圏人口当たりの数値

比較欄は、類似都市圏の平均値(都市圏人口当たり)に対する広島都市圏の数値(都市圏人口当たり)の高低差をパーセンテージで示した。

旧市民球場跡地活用アイデアの他の大規模未利用地との機能分担について

主たる機能

1-1 アミューズメント機能

テーマパーク、遊園地、水族館、動物園、映画館、温浴施設

- (他の未利用地等でよいとする意見)
- ・テーマパーク等を作るには旧球場跡地は狭すぎる。
 - ・旧球場跡地でなくとも他に適切な場所がある。
 - ・マリナーホップが隣接する西飛行場跡地に集約した方がいい。

1-2 展望機能

展望タワー

- (他の未利用地等でよいとする意見)
- ・旧球場跡地でなくとも他に適切な場所がある。
 - ・旧球場跡地では高さ制限に引っ掛かってしまうため、二葉の里地区などがよい。

1-3 産業振興機能

メッセ施設、コンベンション施設

- (他の未利用地等でよいとする意見)
- ・大規模なものは旧球場跡地には適切ではない。しかし、都市型のものであれば、可能性はある。
 - ・海の玄関、宇品にある用地に作ればよい。

1-4 商業機能

ショッピングセンター、アウトレットモール

- (他の未利用地等でよいとする意見)
- ・競合を避けるため、既存のところが良い。

1-5 飲食物販機能

屋台村(産業奨励館の復元など街並み再現)、広島の特産品街、広島名物の飲食街

- (旧球場跡地に必要であるとする意見)
- ・公共空間を生かした魅力的なものであればよい。
 - ・補完的なものであればよい。

2-1 文化芸術機能

劇場、ホール(歌舞伎座、神楽殿、公会堂、音楽専用ホール、ライブハウス)、アニメ・マンガ拠点

- (旧球場跡地にふさわしいとする意見)
- ・広島駅との役割分担の下、紙屋町・八丁堀地区の持つ回遊性、界隈性を生かすための核になる可能性がある。
 - ・平和記念公園や原爆ドームの北側にあるという点や滞在型の観光振興を図るという点から、文化的なものがほしい。
 - ・市民が気軽に立ち寄り、散策できるものがある。
 - ・文化振興を図る上での基礎は広島にはある。

2-2 芸術創造機能

美術館、芸術文化活動拠点(市民の発表や展示のための拠点)

- (他の未利用地等でよいとする意見)
- ・周辺に既存施設として美術館などは多いため、それらを充実すればよい。

2-3 教養機能

博物館(自然科学系、歴史系)、図書館、広島にゆかりのある人物の記念館

- (他の未利用地等でよいとする意見)
- ・博物館などについては、知の拠点である広島大学本部跡地がよい。

3-1 スポーツ・遊戯機能

サッカースタジアム(天然芝)、野球場、スポーツ(カーブ)記念館

- (他の未利用地等でよいとする意見)
- ・サッカー場建設は、紙屋町二丁目としては、経費や試合数、設備投資の問題で疑問である。わざわざ一番立地条件の良い旧球場跡地に造らなくても良いのではないか。
 - ・西飛行場跡地に南道路が整備されることなどもあり、スタジアム等は他の大規模未利用地でよい。
 - ・スタジアムのような大規模な施設ではなく、市民が気軽に立ち寄り、散策できるものがある。
 - ・西飛行場跡地は、(周辺に)野球場やテニス場などもあり、スポーツの場所として最適なのではないか。
 - ・西飛行場跡地において、各種スポーツ団体がマリンスポーツ機能を付加しようとしている。

3-2 スポーツ複合型機能

複合スタジアム【ヒューマンパレス】(人工芝。サッカー、コンサート等の開催が可能で、スタンド下に様々な機能を取り込む。)

- (旧球場跡地にふさわしいとする意見)
- ・大手町一丁目としては、サッカー場としても使用できる複合施設を造り、皆が望む機能を取り込んでみてはどうかと考えている。
 - ・現在、Jリーグの公式戦等は天然芝のグラウンドで開催するように指導されているが、天然芝の場合、32週間(年間の3分の2)程度は他の目的で使用できないため、いろいろな催しが開催できるよう人工芝としている。国際サッカー連盟は人工芝を公認しており、日本でも近い将来、人工芝でJリーグの公式戦を開催できる可能性は高いと考えている。
 - ・複合スタジアムは子どもが遊ぶことやフットサルで使うことを拒否するものではなく、市民祭などいろいろな形で広場を使えればよいと考えている。
 - ・スポーツ等複合機能として、サッカーのための施設ではなく、文化的な機能を付加した形と捉えることもできる。
 - ・イベント広場は雨が降ったときに使いにくいので、屋根があった方が使いやすいが、原爆ドームから見て、屋根など大きな形の施設が目に見えるのはどうか。
 - ・(施設を)掘り下げて造ることにより、我々の望むものが全部盛り込めるのであれば、解決方向に向かうのではないかと。
 - ・観客が非常に多く来るため、路面電車やバスなど交通の便が良い旧球場跡地がよい。

- (他の未利用地等でよいとする意見)
- ・サッカー場建設は、紙屋町二丁目としては、経費や試合数、設備投資の問題で疑問である。わざわざ一番立地条件の良い旧球場跡地に造らなくても良いのではないかと。
 - ・西飛行場跡地に南道路が整備されることなどもあり、スタジアム等は他の大規模未利用地でよい。
 - ・スタジアムのような大規模な施設ではなく、市民が気軽に立ち寄り、散策できるものがある。
 - ・すぐに箱物を造るよりも、市民に使っていただき、どういう使い方をされるかによって次に箱物を議論すればいいのではないかと。
 - ・市民や県外、海外から来た人が交流してにぎわいをさらに拡大していけばよいと思うが、スポーツ(サッカー)施設ができてしまうと、サッカーが好きな人以外、あるいは県外、外国から来た人には関係ない施設になる。
 - ・サッカー場の周りに様々な設備を付けているが、本当にできるかどうか分からないため、図面を描いて、それで意見をいただきたい。
 - ・複合スタジアムは、「文化芸術機能」や「緑地広場機能」と並立するのかが疑問である。

4 平和発信機能

平和博物館、平和運動の拠点、爆心地の復元(産業奨励館の復元など街並みの復元)

- (他の未利用地等でよいとする意見)
- ・既存の平和記念公園で十分充足されるため、そこで機能強化を考えるべきである。

5 緑地広場機能

緑豊かなオープンスペース(芝生広場、都市の森、子どもの遊び場、噴水や池)、イベント広場、多目的スポーツ広場【スポーツチャレンジフィールド】、平和のための広場、慰霊碑・モニュメント(イサム・ノグチのセノターフ、大仏)、植物園、菜園

- (旧球場跡地にふさわしいとする意見)
- ・旧球場跡地は公園であるため、重要である。
 - ・紙屋町・八丁堀地区の回遊性、界隈性を生かすため、また、観光との連携という点からも人が立ち寄りたくなるような魅力的な公共空間、イベント広場が重要になる。
 - ・元安橋のオープンカフェのようなゆっくりくつろげるオープンスペースが必要である。
 - ・若者が楽しめるようなイベント広場が必要である。
 - ・商工会議所等がなくなれば、水とグリーンの中で、文化的なものや緑地広場がもっとオープンになる。
 - ・旧球場跡地は、2、30年掛けて作り上げていくようなものがある。5年くらいは何もない広場があって、そこから何か生み出していくことを考えた方が形になっていくのではないかと。
 - ・当面広場として市民に利用してもらうことで、市民のニーズが見えてくるのではないかと。
 - ・イベント広場は、国際級のイベント広場にする必要がある。

6 交通機能

バスセンター

- (主な意見)
- ・特になし

7 その他

老人福祉施設、児童福祉施設、医療施設、大学、研究機関、行政機関、テレビ局、ホテル

- (主な意見)
- ・議論するまでもない。

主たる機能の補完施設

○ 総合観光案内センター
○ 観光バス駐車場

- (補完施設とする意見)
- ・かなり重要である。

○ 飲食物販施設

- (補完施設とする意見)
- ・補完的なものであればよい。

○ 一般駐車場
○ タクシー専用乗降場
○ ヘリコプターの待機場

- (主な意見)
- ・特になし

○ 駐輪場
○ レンタサイクル場

- (補完施設とする意見)
- ・回遊性が生まれるようにするため、必要である。

○ 子育て支援施設

- (主な意見)
- ・特になし

○ 大型遊具

- (補完施設とする意見)
- ・ハノーバー庭園は使い勝手が悪いので、親子で遊ぶことができるスペースを設けたい。

大規模未利用地への都市機能配置案

（参考） 「住み、働き、学び、憩う」機能

【配置理由】
・活力にあふれた拠点としていくため、従前からの「住み、働き、学び、憩う」の4つの機能をより一層拡充・強化する必要があること

【土地の現況】

面積	約4,570ha
法的制約	地区計画（丘陵部の新規開発地区）
周辺・関連施設	広島広域公園 広島市立大学 広島修道大学 アストラムライン大塚駅等 五日市IC、西風新都IC

文化芸術機能 緑地広場機能 スポーツ複合型機能

※「旧広島市民球場跡地委員会」の中間取りまとめの内容

【配置理由】
・若者を中心としたにぎわいのための場という方向性に沿っていること

【土地の現況】

面積	約7ha
用途地域	第二種住居地域
法的制約	都市公園法（中央公園） 国有財産法 美観形成要綱（原爆ドームのバッファゾーン）
周辺・関連施設	平和記念公園 原爆ドーム 広島バスセンター 商工会議所

スポーツ・レクリエーション機能 広域防災機能 新たな雇用を創出する機能

※今後、広島県と協議が必要

【配置理由】
・既存の関連施設や広島南道路もあり、マリンスポーツを含めたスポーツや娯楽の場として活用できること
・市民の防災意識が高まる中で、ヘリポートの機能があること
・まちの活力が重要となる中で、企業誘致に適したスペースがあること

【土地の現況】

面積	約40ha ※現在の飛行場からヘリポート用地等を除く
用途地域	準工業地域
法的制約	航空法（制限表面）
周辺・関連施設	広島ヘリポート 三菱重工業（株）観音工場 山陽高校 観音マリーナ マリーナホップ

広域的ビジネス機能

【配置理由】
・中四国地方最大の広域交通ターミナルをいかしたシティゲートであり、ビジネス拠点に最適な交通ネットワークを備えていること

【土地の現況】

面積	約14ha
用途地域	商業地域 近隣商業地域
法的制約	—
周辺・関連施設	JR広島駅

教育・教養機能

【配置理由】
・「知の拠点」の再生に向けて取り組んでいること
・広島大学東千田キャンパスや東千田公園との相乗効果が発揮できること

【土地の現況】

面積	約11ha
用途地域	第二種住居地域
法的制約	—
周辺・関連施設	広島大学東千田キャンパス 東千田公園 千田小学校 広島赤十字・原爆病院

